

第 1 回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

議 事 概 要

日時：平成 21 年 5 月 29 日 14:30～16:30

場所：ラーバンセンター第 4 研修室

出席者：末尾に記載

議事次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 挨拶
4. 委員紹介
5. 座長・副座長選任
6. 議題
 - ① これまでの検討経緯について
 - ② まちなみ検討事業について
 - ③ 検討の進め方と検討内容について
 - ④ 意見交換
7. その他
8. 閉会

配布資料

- ・資料 1：新幹線事業の概要（駅周辺整備概要、土地利用構想図等）
- ・資料 2：新幹線新駅周辺地区の土地利用方針（案）
- ・資料 3：新幹線駅周辺地区まちなみ検討事業の概要
- ・資料 5：（仮称）上越駅の整備に関する要望書
- ・資料 6：新駅及び新駅周辺における景観まちづくりについて

議事概要

1. 開会
 - ・事務局より開会
2. 委嘱状交付
 - ・村山副市長より委任状を交付

3. 挨拶

・村山副市長挨拶

本検討会議は非常に大きなテーマであるが、皆様の知見、情報を提供いただき、お力をお借りしたい。よろしくお願いします。

本市は平成 17 年 1 月 1 日に全国最多の 14 市町村で合併し、全国で 9 番目の面積の市になった。合併そのものは大きな決断と勇気のなかでスタートした。一千億を超える予算、二千人を超える職員を抱え、14 の地区にある資源、財産を一つにまとめていくことは並々ならぬ問題である。合併後は体力のある足腰の強い持続可能なまちをつくっていくことが必要である。

合併は、異質の共生のスタートだと考えている。合併後 5 年経った今、21 万人の市民が合併に寄せた期待をどのように実現していくかが、まさに問われている。合併後 10 年間で、どういうまち、どういう地域をつくっていくのか、どういう人をつくっていくのか、切磋琢磨しなければならぬ時代を迎えている。

地域経営の理念や結果が問われる時に差し迫っている。この地域が、選ばれる地域になるのはどうすればよいのか。合併の是非に関わることになるが、行政、議会、そして市民一人一人も努力していくことが必要である。まちが進化する方向をどんな形でしつらえていくか、今回の議論の中で詰めていっていただきたい。

私は、最近、心のなかで「いい景色」という言葉が気になっている。外から見ても、自分自身が見ても“いい景色”が一つのありようであり、それは人が集う風景であったり、日常のまちの中にあると思う。それぞれの人のなかに住む“いい景色”を、このまちにつくっていく必要があると思う。この地域が変わっていくきっかけを、それぞれの思いをぶつけながら、本会議で真剣に議論いただくとありがたい。

新しいまちを持続可能性のあるものとし、将来につなげていくことが求められているし、本会議の大きなテーマになっていくと思う。

先の金融恐慌で世界的に経済は深刻な状況であり、本市の財政にも影響がある。こうした厳しい環境の中で、100 億という資金を投資しながら、新しい上越の玄関口をつくる事業であるため、是非、様々な角度から親身に議論していただき、次の世代に渡すためのビジョン、そして“いい景色”を議論していただきたい。

委員紹介

各委員より自己紹介。

4. 座長・副座長選任

委員より、事務局からの推薦を求める意見があり、座長に水野教授、副座長に黒野准教授を推薦。一同異議なし。

(水野座長挨拶)

本日、金沢からの北陸本線の車窓から、北陸新幹線の構造物が出来上がってくるのをずっと見

てきた。昨日の新聞記事では、金沢でも予算が決まり、いよいよ工事が進むこととなる。(仮称)上越駅についても、皆さんと考えながらすばらしい駅にしていきたい。

私は、金沢駅の駅周辺整備のプロデューサーを務めた。新駅では、新高岡駅、新黒部駅で整備委員会の委員長をしていた。上越市も負けないように、皆さんと一緒に考えていきたい。よろしくをお願いします。

(黒野副座長挨拶)

新駅は上越市、そして新潟県にとっても重要なものとなるため、多くの方のご意見をお聞きし、反映させていくために、副座長として努めていきたい。よろしくをお願いします。

5. 議 題

(1) これまでの検討経緯について

- ・新駅周辺整備について、都市整備部新幹線新駅周辺整備課長より説明
- ・釜蓋遺跡について、教育委員会生涯学習推進課より説明
- ・新幹線新駅周辺地区の土地利用方針案について、都市整備部都市計画課より説明

(2) まちなみ検討事業について

- ・事務局より説明

駅舎デザインについては、鉄道・運輸機構からデザインを提示していただくことになっており、それを基に本会議でデザイン検討を行う。駅舎デザインは、関係機関との協議等によっては、時期がずれこむことが予測される。議論の進捗にあわせて、改めてスケジュールを調整させていただきたい。

(3) 検討の進め方と検討内容について

- ・事務局より説明

平成16年の要望書以降に合併や遺跡発見があり、議論にあたっては要望書をベースとしながら、それらの新たな状況を踏まえて議論を進めていきたい。

(4) 意見交換

(水野座長)

今回の検討にあたっては、新駅周辺、上越市全体、さらには新潟の問題としてさまざまな視点があると考えられる。それぞれの委員の思いを話してほしい。

(飯塚委員)

市民委員として選んでいただき光栄であるが、大事業に身が引き締まる思いである。

新駅周辺は上越の顔となるため、私が携わるカラー関連の経験を活かして、景観について考え

たいと思ったのが応募のきっかけである。新駅が何十年先も上越市のイメージの発信の場となってほしい。上越市のイメージを、駅だけでなく、周辺のまちに如何に取り入れられるかがカギと考える。魅力的な新駅となり、新駅から次の2次3次交通とつながって上越地域にまで広がり、全国からいろいろな人に来てほしい。その核となる駅であってほしい。

妙高山などの自然や、釜蓋遺跡の歴史など地域の良さを活かしたデザイン、まちづくりを進めていきたい。地元の富岡は、商業施設の立地も進んで、上越や都会的なものなどいろいろなものが入り混じってしまっている。他方、この地区は、地域の特色として、上越杉や石材、土などを活かしたデザインとしていくことも考えられる。

子供の世代に繋げていける、将来の若者がみても良いと思えるデザインにしていきたい。

(水野座長)

上越らしさを発信していけるようにしていきたい。

(伊藤委員)

造園関係に携わっている。上越市の歴史やすばらしい景観を改めて感じている。それらを活かして、上越らしさを発揮してまちづくりをしていきたい。子どもの時代、孫の時代まで誇れる、地域の玄関口としていきたい。

(水野座長)

この地域の固有の樹種などはあるのか。

(伊藤委員)

地域にあった植生がある。駅周辺には遺跡公園があり、遺跡と関連した植栽も考えられる。

(内山委員)

青年会議所から参画しているが、個人的には建設業に携わっている。

新駅周辺整備を考えると、まず、新駅への停車本数が気になりである。一部では朝夕1本しか停車しないという話も聞こえてくる。

市内の商業集積はジャスコなど富岡地区に立地が進み、人が流れている。直江津駅や高田駅前の現状を鑑みると、大きな幻想を抱いて新駅周辺を整備するのはいかがかと思う。商業に特化する方向性では都会にはかなわない。地域の魅力は米と雪であり、どこにでもある地方都市の姿であまり武器にはならない。中央から来てもらい、新幹線が停まるようにするには、商業集積ではなく、歴史のロマンや田舎に魅力を感じるソフトの部分にテーマを絞って周辺整備を考えていくのが良いのではないか。謙信のお膝元として、駅名も国内に例のない人名を付けたり、駅自体が水族館や美術館になり、ここに降りる必然性を持たせることも考えられる。

(水野座長)

ある意味ドライな意見も必要である。立場としては個人の意見も大事である。自由に意見をお

願いたい。

高岡も中心商店街がさびれ、新駅周辺を開発することへの非難もあった。この点でバランスのとり方が難しく、商業集積ではなく、にぎわいやもてなしの場としている。

中心市街地との役割分担についてはある時点で判断しなければならない。土地利用などもこの会議だけでは無理だが、意見をもらいながら進めたい。

(大島委員)

平成 16 年度の要望書の検討にも参加した。

地元としては、全列車停車が大前提である。市街地の活性化は、新幹線が停まれば効果があがるはずである。

昨年度、地元 1,500 世帯への意識調査を実施し、市長に要望している。前回の要望書に付加する意見もかなりあるため、今回反映をお願いしたい。

そのほかに、これまで協議会代表 40 名が 13 区を回って交流を図っており、全体の観光・物産に関する情報が集まっている。各区からも、新幹線が開業した際には、こうしたいという要望や期待感がある。

この地区は、昭和 40 年代には、ほたるの群生がすごかった。生態学的に湿度やえさなどが適しており、古来から河川を中心に発達してきた影響であろう。水をひいてビオトープなどをつくれれば、新幹線駅から歩いてわずかの遺跡もあり、期待できる。

観光の面からも、コインバスの運用や駅前の機能配置により、交通状況が変わってきて活気のある駅になると期待している。

(水野座長)

新駅の停車本数はどのくらいになるのか。

(事務局)

現在、県を含めて協議をしており、現実的に決定するのは開業 1・2 年前になる。ただし、朝夕 1 本ということはありません。JR がダイヤを組むことになるが、皆さんが悲観するような状況は想定していない。前向きに議論をお願いしたい。

(水野座長)

乗客数については、高岡、黒部では、1 時間 1 本の停車を前提で各施設の規模を計算していた。

(平野委員)

公募で参加している。直江津と高田だけでなく、新たに新設される駅周辺に可能性を感じている。現状の直江津や高田の駅周辺がさびれてきているなかで、ここに新駅ができて繁栄は考えにくい。

首都圏や金沢との時間距離は縮まるが、在来線の三セク化、特急の廃止など負の面もある。市の発展としては、人口が増え、税収が増えることを期待したいが、将来も見据えて考えていかな

ければならない。

ビジネス面では、企業や学校など誘致できるように希望している。また、観光面では、春は高田の桜、夏は海水浴、秋は山菜や山歩き・ハイキング、冬は雪などがあり、あちこちに資源が点在している。観光客のリピーター確保のために、四季ごとに戦略を立ててやらねばならない。

一番危惧することは、駅名が難しいことであり、「上越」については、なぜ?と思う。

列車が停車したときに妙高山の山並みが望め、例えば公園に桜がいっぱいになっていれば高田を連想できるし、駅前に謙信公のモニュメントを置けば各地域にイメージをつないでいける。

妙高市では、長期滞在型のクライנגルテンが盛り上がっている。団塊の世代も増えて、都会からの利用も多い。安中榛名駅のポスターでガーデニングを打ち出しているように、都会からみたこの地の魅力である、海・山・食などを活かしていきたい。

明確な戦略をもってまちづくりをしないといけない。

(関委員)

建築というと、建物や都市計画まで視野に含んでいるが、最近ではまちづくりや歴史、文化、社会学なども要求される立場になっている。地元に戻って10年経ち、高田の歴史的資源を活かしたまちづくりにも関わっている。

新幹線というと、一昔前は右肩上がりの発想だったが、今までの失敗例も参考にしながら、検討していきたい。既成市街地の中の駅と田んぼの中の駅では考え方が異なるはずである。

現地では、田んぼが美しいと感じた。弥生時代の生活の営みがあり、田んぼや山並みの美しさ分かるような駅周辺のまちづくりがある。このような地での建築的な手法としては、建物を地下に埋めて高さを抑えることなどを考えるが、今回は高架になる。駅舎は、最近の新しいデザインではこの地にはあわないと思う。これまでの手法とは違う切り口でのまちづくりになればよい。ひとつのキーは遺跡である。緑や田んぼとのつながりを活かして、テーマパークではなく、周辺の風景とつながる公園や駅舎であってほしい。

(水野座長)

駅周辺のデザインについては意見が分かれる。金沢駅ではドームとしたが、検討段階では、3つの案があり、かわら屋根の城風や兼六園を作れとの意見もあった。

(関委員)

京都駅や京都タワーも、千年の歴史のなかでさまざまな議論があったので、上越もいろんな議論があると思う。

(本山委員)

転勤族だが、地元に戻ってきてふるさとはいいものだと感じている。高田駅のホームに降りてふるさとも感じた。新駅は、これからの若い人にとって、地元に戻ってくるルーツになる。ホスピタリティの高い駅にして、画一的ではなく、いろんな思いがこもったものにしていきたい。障害者にもやさしい駅など、いろんなホスピタリティがある。

駅周辺については、身の丈にあった駅、規模にしていきたい。将来の発展に対する伸び代は確かに必要であるが、定住や交流人口の増加を過大に見込んではいけない。駅によっては、閑散として、駅前広場が雑草でいっぱいになっているような例もあるなかで、本駅は住んでいる人にとって有効な駅になるとよい。

市街地の活性化も検討しているようだが、今の場所に商業施設はもういらないと思う。駅が上越市のコミュニティの場となればよい、そのためには図書館などもありえる。土地利用方針についても、コンパクトに身の丈にあったものになればよい。人々が交流する場になることを望んでいる。

観光は、住民の盛り上がり的大事である。住民が知らないものを外で PR してもうまくいかない。例えば、蓮の御膳も、もっと地域に認められれば、より良いものになっていくと思う。駅も地元が愛着をもたないと交流の場にならない。

(新潟県土木部都市局都市政策課長)

今回の検討では、地域の特性を活かしながら、この地域がオンリーワンになれるように議論を進めていきたい。

(水野座長)

東海道新幹線の時代は、駅ができるだけ地元で喜ばれ、評価されたが、今の時代は、都市間競争の時代であり、地域らしさや特色を活かした魅力づくりが問われてくる。今回の議論を通じて、自己確認から発信できるもの、駅の周辺でできることが見えてきた。難しい課題であるが、地元の方から出てくる雰囲気を感じてうれしく思う。

6. 閉 会

・企画・地域振興部長より挨拶

新幹線開通により、2時間県内で約 3,500 万人の都市がつながる。首都圏からは一番近い日本海側の駅、関西圏からは新潟県のまさしく玄関口となる。

この地域には、豊富な観光資源や農産物のほか、工業集積も進んでいる。そのような力を発揮することが、まちをあげて、また、市および上越地域全体の思いでもある。まさしくゲートウェイとして、駅および駅周辺のまちなみを市民の皆さんと考えていきたい。

タイトなスケジュールだが、委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、次代につなげていけるまちなみをつくっていきたい。

よろしく申し上げます。

本日はありがとうございました。

次回会議日程については、文書にて案内する。

以上

第1回上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

出席者名簿

| 氏名 | 在籍等 | | 出欠等 |
|--------|--------|---------------------------------------|-----|
| 飯塚 むつこ | 公募市民 | 会社経営 カラーコーディネーター | 出席 |
| 伊藤 えり子 | 造園工事業 | (株)英香園取締役 | 出席 |
| 内山 勇人 | 建築業 | 上越青年会議所理事長 | 出席 |
| 大島 政義 | 地元代表者 | 和田地区振興協議会会長 上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会会長 | 出席 |
| 黒野 弘靖 | 学識経験者 | 新潟大学工学部建設学科 准教授 | 出席 |
| 関 由有子 | 建築業 | せきゆうこ設計室主宰 一級建築士 | 出席 |
| 田中 弘邦 | 商業・観光業 | 上越商工会議所会頭、 上越観光コンベンション協会会長 | 欠席 |
| 平野 仁 | 公募市民 | 会社役員 | 出席 |
| 水野 一郎 | 学識経験者 | 金沢工業大学環境・建築学部教授 | 出席 |
| 本山 雅彦 | 旅行業 | (株)JTB 関東上越支店長 | 出席 |

オブザーバー

| 氏名 | 在籍等 | | 出欠等 |
|-------|-------------------|----------------|-----|
| 奥野 賢 | 新潟県土木部都市局都市政策課長 | | 出席 |
| 戸松 裕 | " 交通政策局交通政策課長 | | 欠席 |
| 下鳥 竹見 | " " " | 並行在来線企画室 政策企画員 | 代理 |
| 佐藤 正人 | 鉄道・運輸機構北陸新幹線建設局次長 | | 出席 |
| 大森 幸夫 | " 北陸新幹線建設局計画課課長補佐 | | 出席 |
| 佐藤 行雄 | " " " | " | 出席 |

上越市(事務局)

| 氏名 | 在籍等 | | 出欠等 |
|-------|----------------------------|--|-----|
| 竹田 淳三 | 企画・地域振興部長 | | 出席 |
| 宮崎 豊 | " 新幹線・交通政策課長 | | 出席 |
| 瀧本 幸次 | " 新幹線・交通政策課副課長 | | 出席 |
| 伊藤 伸 | " 新幹線・交通政策課係長(新幹線・並行在来線担当) | | 出席 |
| 渡来 美香 | " 新幹線・交通政策課主任 | | 出席 |
| 奥田 博 | 都市整備部都市計画課長 | | 出席 |
| 市川 公男 | " 新幹線新駅周辺整備課長 | | 出席 |
| 中村 直人 | 教育委員会生涯学習推進課主任 | | 出席 |
| 委託業者 | 八千代エンジニアリング株式会社 | | 出席 |